



補習校だより

平成24年度 第37号

平成25年2月9日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

校長携帯 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail hoshuko@bellsouth.net

節分

校長 永井 晋

先週、幼稚部で節分の豆まきを行いました。節分とは、読んで字のごとく、季節の分かれ目のことで、元々は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日を指していたそうです。節分が特に立春の前日を指すようになったのは、冬から春になる時期を1年の境目とし、その前日は大晦日と同じ意味合いを持つと考えられていたからだそうです。その大晦日に、お祓いや次の年の無病息災を願って始まったのが「豆まき」だそうです。悪いものの象徴である「鬼」（鬼門の鬼です）に豆（魔滅）をぶつけて、役を祓うという意味だそうです。

そんな小難しいことは、さすがに幼稚部では教えませんが、朝礼で私の話の中で少し触れて、午後豆まきを行いました。幼稚部のお父さんと私が鬼のお面をつけ、こん棒に見立てたプラスチック製のバットをもって、見えないところに待機していると、幼稚部のかわいい子どもたちが豆まきをしようと校庭に集まってきました。

担任の先生から、豆を渡され、まさに「豆まき開始」を見計らって、「ウォー」と子どもたちの前に出ていきました。まさか、「鬼」が出てくるとは思っていない子どもたちは、初めこそ「キャー」と驚いてくれましたが、すぐに「あっ、校長先生だ！」と気が付き、豆を投げるのを止めるかと思ったのもつかの間、さらに思い切り「えいっ」と豆をぶつけてきました。「鬼」役のお父さんと私は散々豆をぶつけられ、そろそろ豆がなくなってきたタイミングで、幼稚部担任が「豆がなくなったお友達はまだたくさんあるからね」と豆の追加の声掛け。さらに豆をたくさんぶつけられることに。帰宅した後、私の衣服のポケットというポケットから豆がたくさん出てきたことは言うまでもありません。

補習校では、ある意味、日本よりも日本的です。意図してそうしないと、日本ではないので日本の行事に触れることができない恐れがあるからです。しかし、年間42日間の授業日しかなく、学力と行事を天秤にかけることがしばしばあります。授業を確保しつつ、日本の伝統や文化も子どもたちに伝えていきたいと考えております。

